

<テーマ>お互いの考えや技能を交流する「学び合いの場面」を取り入れた指導の工夫

(利府町立利府西中学校)

I 取組の視点

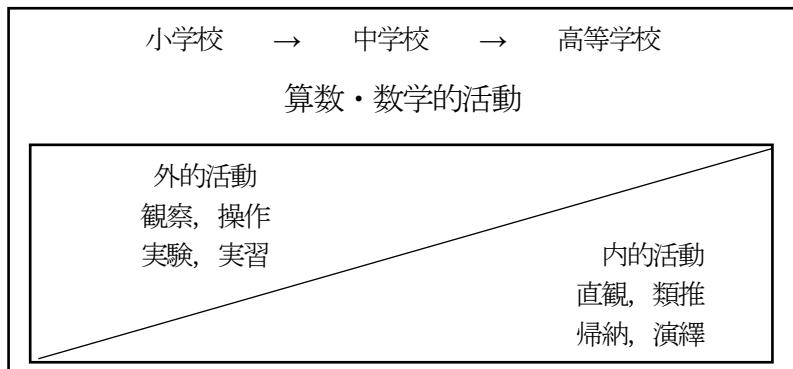
○ “学び合い”とは

学習問題を解く中で生まれた問いに対する自他の考えをかかわり合わせることで、また、問いに対する考えを交わしながら、新しい視点を得たり、合理的・論理的な思考を身に付けたりすることで、その視点や思考を生活や学習の様々な場面で活かすことができるようにすること。形態はペア、グループ（生活班5、6名程度）を基本とする。

○ 数学的活動とは

- ① 既習の数学を基にして数や図形の性質などを見だし発展させる活動
- ② 日常生活や社会で数学を利用する活動
- ③ 数学的な表現を用いて根拠を明らかにして筋道立てて説明し伝え合う活動

である。数学的活動は右図のように具体的操作や観察、実験が可能な外的活動と、類推したり振り返って考えたりするなどの内的活動に分けられる。これら2つの活動を、発達段階に応じて、学習活動の中に適切に組み込んでいく必要がある。特に中学生の場合、外的から内的、内的から外的というように、循環的な活動になることが大切である。



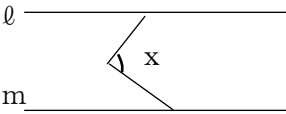
以上のことから、以下の視点1～3についての授業実践を行った。

【視点1】問題意識や興味・関心をもたせる課題の提示

【視点2】課題解決学習を通して、互いの考えを学び合う活動

【視点3】単元全体にわたって、内容のまとまりごとに1～数個の「課題」をつくり、それらを核とした単元の指導計画を作成し、生徒が「自ら考える」継続的な実践を行う。

II 取組例 【視点2】課題解決学習を通して、互いの考えを学び合う活動

	学習活動	形態
第1時	① 前時までの学習内容の確認 ⇒ 映像を用い、図形の性質を視覚的に再確認 ② ねらいの提示 ⇒ “今まで習った図形の性質を用いて、様々な方法で角度を求めよう” ③ 課題1の提示 【課題1】 $l \parallel m$ で $\angle x$ の大きさを求めよ 	一斉 一斉
	④ 予想を立てる ⇒ どんな図形の性質が活用できるか 補助線が必要である ⑤ 自力解決 ⑥ 考えを交流 ⑦ 発表 ⑧ 課題2 課題1から何か気付くことはないか ⑨ 個人思考⇒ペア学習 ⑩ 考えの発表 ⇒ 三角形の外角の和の性質について定義 ⑪ 次時の予告 ⇒ 文字を用いて一般化する	個人 個人 班 一斉 個人 一斉
第2時	① ねらいの確認 ⇒ 角度の求め方について文字を用いて一般化しよう ② 予想を立てる ⇒ 前の時間で何か使えることはないか ③ 自力解決 ④ 考えを交流 ⑤ 発表 ⑥ 練習問題 (グループのまま解かせる)	一斉 個人 班 一斉